

県内から3人入賞

世界児童画展



受賞に「うれしい」と笑顔を見せる小島友梨ちゃん

第千七百回世界児童画展(日本テレビ文化事業団、美術文化協会主催、読売新聞社を後援)の入賞者が十四日発表され、県内からは加古川市平岡町新在家、「マール幼児ルーム」の小島友梨ちゃん(5)が日本国際連合協会賞、尼崎市貞良園田慈愛幼稚園児童代表、神戸市中央区飛内橋通、雲中小六年前田欣也君(3)が美術文化協会賞に選ばれた。また、雲中小が都道府県団体賞に選ばれた。

「あじさいの道」 友達と園庭で遊ぶ様子描く

小島友梨ちゃん

友梨ちゃんは、兄の野口小四年友幸君(5)も5年前に入賞しており、兄妹での受賞に「うれしい」と笑顔を見せる。

入賞作「あじさいの道」は、アジサイが咲き乱れる園庭で友達や先生と一緒に遊んでいる様子を描いた。絵になった。素材は花瓶に差した花だけだったが、カタツムリや森など細かいところにも気配のまま描くのではなく、想像が夢のようです」と話し、花に囲まれた楽しい像を働かせるのでも楽しんでいった。

市街地と公園を水彩で

前田欣也君 「階段から見た風景」



「今までで一番うまく描けた」と話す前田欣也君

前田君の作品は「階段が生懸命だったのがよから見た風景」学校に近く、小さいころからよく遊ぶ。いる生田君の公園の階段から、川越しに見える市街地と公園を水彩で描いて自信を持って「これは」を結びました」と話している。

また、都道府県団体賞の受賞について同校の浜西俊彦校長は「図工学習を通して、子供たちの豊かな心を育てるという努力が実を結びました」と話している。

昆虫図鑑見て筆動かす

平良洋一君 「くわがたむし」

洋一君の作品は画用紙が鑑を見て「これをかきらほみ出そうなくわがたい」と、絵の具をたっぷらむし。昨夏、昆虫園で使った筆を動かした。

担任の上田明美さんは「かっこいい」と一緒に話しながら描きました。絵が大好きで、いつも根気よく画用紙に向かっています」とほめる。

また本物のクワガタムシを見たことがない洋一君は「一度本物を飼ってみたい。角のギザギザをほみ出さないように塗るのが難しかったです」とうれしそう。母の則子さんは「家でも汽車や車の絵をよく描いて見せてくれます。絵が好きになって少しは技術が伸びてきたかな」と喜んだ。



伸び伸びと絵を描く平良洋一君(後)は母・則子(左)